沼津市・戸田村新市建設計画によるまちづくりは

川口　三男

問　沼津市・戸田村新市建設計画期間が残り二年ほどとなった中、東日本大震災や経済不況など、現状を反映したまちづくりが求められるが、①本計画に基づく戸田地域のまちづくりの現状認識は。②支所機能も導入される地域活性化センターが、戸田地域の中心部から離れた場所に予定されていることに対する認識は。

答　①本計画における主要事業七十二事業のうち、平成二十三年度までに六十五事業が実施されており、戸田地域の個性や魅力、歴史や文化を生かしたまちづくりが進められていると認識している。②戸田支所は、現在、推定津波浸水域内にあるが、有事の際、戸田地域の災害対策の拠点となることから、支所機能を地域活性化センターに導入することとした。本施設は、東日本大震災を踏まえ、建物の高さや避難階段の設置など、設計の見直しを行っていくが、整備予定地や導入機能については、これまで年月をかけて議論してきたことから、現計画で進めていく。

戸田地区過疎地域自立促進計画の進捗状況は

水口　淳

問　戸田地区過疎地域自立促進計画について、①全体の進捗状況は。②林道整備の状況は。

答　①本計画は、平成二十二年度から二十七年度までの六年間を期間とし、平成二十三年度末までに全四十七事業中、三十二事業を実施している。未着手の事業については、地元の意見を伺い、県等の関係機関とも協議しながら進めていきたいと考えている。②戸田地区の林業振興の上で、林道整備は重要である。本計画では四路線の整備を計画し、そのうち三路線は事業を進めている。未着手の一路線についても、早期着手に向け、関係機関と協議していく。

アートによるまちおこしを

千野　慎一郎

問　アートによる地域活性化が全国的に広がっている中、本市では美術館等に多数の絵画や書などを所蔵していることに加え、市役所、病院等の公共空間や中心市街地商店街に数々のアート作品があるが、これらを利用したまちおこしは。

▲市立病院に使われている麻生秀穂作の壁画

答　本市では庄司美術館において多数の有名な絵画等を収蔵展示しているほか、市立病院にある麻生秀穂作の壁画など、市民が直接目に触れる公共施設や商店街などにも有名作家による美術作品が設置されている。これらをリストアップし、アートマップの作成や案内看板を設置することは、市民がより深く芸術文化に親しむという観点からも大変重要だと認識しており、今後、まちなかにあるアートの活用について調査研究していく。

三浦地区の地域振興策は

原　信也

問　三浦地区における各産業の現状と振興策は。

答　三浦地区は、沿岸漁業、養殖、アジの開きなどの水産業や、温州ミカン栽培などの農業を初めとする第一次産業を基幹として発展してきた。これら第一次産業は価格低迷や従事者の高齢化などの課題を抱え、厳しい状況が続いていると認識している。こうした中、水揚げに応じた奨励金を交付する水産物流通促進補助や、高品質で、安定生産できるミカン産地づくりなどを進めている。また、風光明媚な環境を生かした観光、交流人口の拡大が重要と考えており、西浦地区の海岸環境整備事業や長浜城跡の保存整備を進めるとともに、イベント開催の支援や、ぬまづ観光資源フォトコレクションで収集した海越しの富士山の写真をホームページ等に掲載するなどの取り組みにより、地域の魅力発信に努めていきたいと考えている。